

I 学校の概要

思考力等の育成モデル校事業

坂出市立加茂小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
2学級 37名	2学級 41名	1学級 28名	1学級 32名	1学級 29名	1学級 30名	2学級 3名	10学級 200名

○教員数 16名

◆学校の特徴

本校区は坂出市の東南部に位置し、校区の中央を南北に国道11号線が通っており、その交通の便のよさから10年程前より住宅地が急激に増えてきている。古くからこの土地で生活している三世同居の家庭と、新たに居を構えた核家族家庭が混在し、地域として同じ行事を行う上での難しさはある。しかし、地域の人々や保護者は本校の教育活動に対して協力的で、健全育成のための様々な取り組みを実施し、子ども会活動や地域の体育会活動も盛んである。そのため、児童は素直な子が多く、家庭地域の教育力を得て加茂小学校の児童としてすくすく育っている。

今年は、「豊かな感性と知性をはぐくみ、自他を大切にすることの育成」という新しい教育目標のもと、「気づき・考え・行動する子」の育成を目指している。自分のものの見方・考え方だけで判断することなく、相手の気持ちを類推し、共に学び合い成長していけるよう、教育活動全体で取り組んでいるところである。

II 研究主題等

研究主題

思考力を育む学びづくり

～ものの見方・考え方を広げ、深める指導方法の工夫～

◆研究主題設定の理由

本校の児童は、与えられた課題に対しては真面目に取り組むが、主体的に課題を見付けたり、課題解決に向けて粘り強く取り組んだりすることに課題がある。

平成28年度の県学習状況調査、質問紙調査の結果でも、下記の項目に「当てはまる」と自信をもって回答した割合が県平均を下回っている。

「係や委員の仕事など自分の役割がきちんとできている」(-9.1%) 「勉強は好きである」(-2.7%)

「分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいる」(-7.3%)

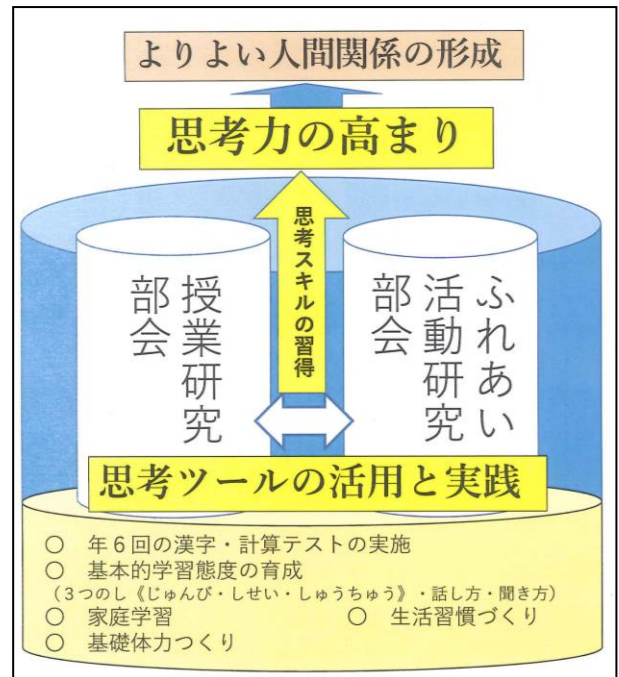
また、学習面においては、ほとんどの教科で正答率が県平均を上回っているが、国語、算数とも「思考・判断・表現」の領域で課題が見られる。

つまり、自分が獲得している情報をそのまま問われれば答えることができるが、それをもとに考えをつくらせたり、たくさんの知識や情報を活用したりして解決へと向かうことを苦手としている。それは、児童自身が解決に向かうためのプロセスが分かっていないからである。問題解決のためには、様々な考え方のパターンがあり、どんな状況の時にどう活用するのかを学ぶことにより、解決へのプロセスが見通せるようになる。この思

考スキルを習得できれば、学習場面だけでなく、本校独自の活動であるふれあい活動の場面でも、お互いに思いやりのある望ましい人間関係が構築できるようになると考える。そこで、思考力を高める「ものの見方・考え方」を広げ、深めるためにどのような学びの場を作っていけばよいのか探るために、上記の研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法

- ① 授業を通しての思考スキルの習得
 - ・ 自分の考えをまとめるための支援
 - ・ 思考の深まりを実感できる思考操作場面の設定
 - ・ 振り返り（リフレクション）の時間の確保
- ② ふれあい活動を通しての習得した思考スキルの活用
 - ・ 表現力を高める朝活動
 - ・ 他者へのかかわりの意義を考える縦割り活動
 - ・ 友達のよさを考える交流活動
 - ・ 友達のよさや自分のよさを振り返る評価の在り方
- ③ 学び合いを大切にした集団づくり
 - ・ 「失敗しても大丈夫」と考える学級経営
 - ・ 温かい雰囲気にも包まれた異学年交流
 - ・ 自分の居場所の再認識



Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- ① 参考となる先進校の実践や文献研修を行う。
- ② 授業を通して思考力の高まりを目指す授業研究部会と実体験の場で思考力の高まりを目指すふれあい活動研究部会を設けて研究を進める。部会の研修では、各学年の実践をもとに思考スキルの洗い出しを行ったり、効果的な手立てを考えたり、系統性を研究したりする。
- ③ 授業研究の視点として「思考スキルの獲得」を最重要項目として位置づけ、授業後研究討議において「自分の考えをまとめる支援」「学びの深まりを実感できる思考操作場面の設定」の2点を考えていきたい。また、効果的な交流の在り方を追求し、個の学びの変容を明らかにするため、外部講師を招き、指導・助言を受けて研修を進めていく。
- ④ 学力向上モデル校が共通して行う「10の指標」をもとに、5月と11月にアンケートを実施し、結果分析を行う。
- ⑤ 5月にQUを実施し、児童の学級における人間関係を調査し、今年度の取組を実践した後の11月に、その変容を確かめる。
- ⑥ 11月実施の県学習状況調査の結果、県版テスト、年5回の校内漢字・計算テストを通して学力の定着度を計る。

Ⅳ 研究成果の普及方法

- ① 研究授業については、同一中学校区内の小中学校に呼びかけ、積極的な授業公開を行い、小小連携・小中連携の立場で広く意見を求められるようにする。
- ② 香川の教育づくり発表会で研究の成果を発表し、研究のさらなる方向性を探る。